本朝語加多

六五

へ13
3052
3

竹取物語五編上

竹と玉
五編
下

森治
梓

京山作
國貞画

京山作
国貞画

竹取物語
六編上

森治板

竹取六編下

特
へ13
3052
3

壹

五編 竹取物語 上冊

天保十一
子春脫稿
同冬上梓
發販
錦森堂

竹取五編

莊持七絃
竹取五編形板成圖頁盡の
動人情小供業玉章及子孫恥
筆と戯作名
近来作者多如蚯蚓雖又世中蚯乃
頭掾筆雖書人癖形一番下手
是山東　京山人題

帝國圖書館藏

隅田河謡曲
実や伽羅の
ちろハ風ハ
雪の
何と尋ぬらん
きくやらネうの
関の東の
国とあたあづま
とのやか
ちろ
九

空ゑる
下男

松若丸
作者 山田

つぐさ初世
ゆくつら
のゝ九郎

松若丸

松若丸

第三代桂の脱

つゞね初せ

むさし屋清川

山東菴京山作
香蝶樓國貞画

●たん元口上
京ばし南てんま町
三丁目坂本屋
名ものの香り
仙女香
黒油
美玉香
四十八種
おうかう
四季
ねがひ
上ひ

ちんち
ちんち
ちんち
ちんち

若丸
口上
江戸
京
京でん

京ゑ百ゑさん扇あもく

●小児五ゑん出ゑ
長生丸一つとゑ百せん

のせん
源氏

竹取五編
あんどん

四
左りん
次八
大八

さろーまあ大

かんぺい
長太八

ガン平
長太

長大八

勢太

四五日のうち
かくされ
左り見
義ケ多八

王のえ

竹取物語六編自叙

源の順ガ作ありとりのふもとゝなるこの頃竹取の翁伝
借よ梅若松若ガ事蹟孟浪して児戯の稗
史とゝ初編より五編伝編の筆を
たゝら甘甚筆よ竹の管あるそれ墨を掬れ
匂ひあり其の昏机ハ松の木あり却のつゝら松竹梅の
三清よ因なきゝもあらず才八ゝとゝ経くて力節
の節ゝもたゝ此竹取なきゝどりしまきの献ゝ
あゝて一日も此君と推賞玉ゞ昏質の幸も
ゝきゝ甚しゝんといふ

脱春脱稿
初冬叢取

山東京傳題

梅若丸
さるまの太郎

迷来梅若為無車
独遇雑義墨子水ノ
班女乱心尋子去テ
柳殘古跡御宮前
立題梅若鳥居
荘山人
東
人形彩

竹取六編之元
一

吉田
竹取六編

仙女香
美女香
城本氏

仙女香
美女香
城本氏

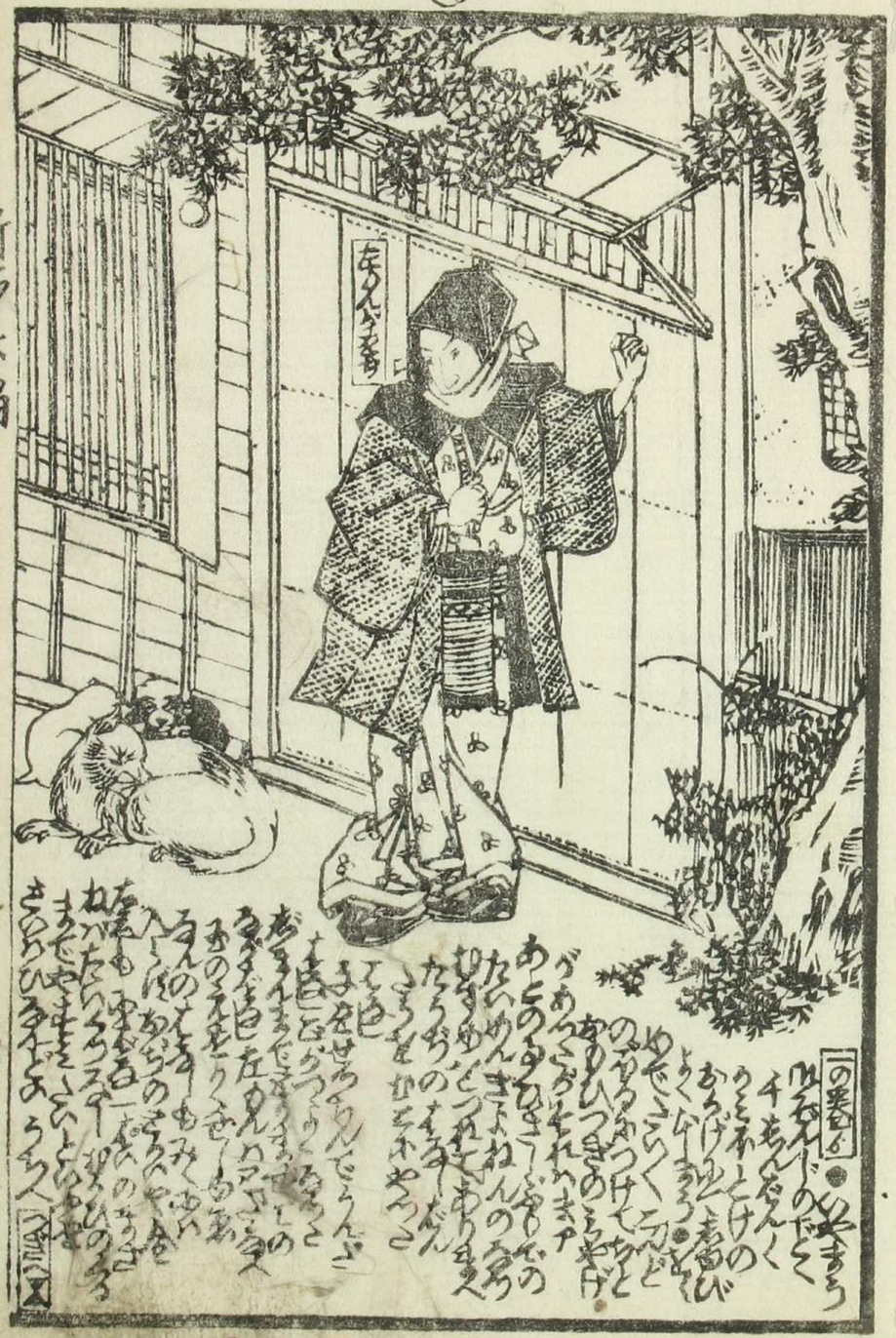
●されば よそのあつそこの三ぜんもの
そうるのものよう田のいのつぎ目あい
るくそくるるぬけ一ぞうん
ワけあつそるれ入りまるくさ
るんとくろくこいくぞまるめくら
●いろるもろひまぞうとかこの
内よりるまだこをこりよせ
ハまんへんそうるるの三百ぬを
ふくるるるべ●一ぞうんの代金
トやうけとりやそうちひさを
たとうち●さまぞうが大けの
おつぞもさあれぞれやきぞぼる
三百ぬ三百ひやうというんぞまろ
のめうひやうがあり一ぞの三百ぬ
ふちけまぜうとるぬぞひくの
ムろこまろくとふところきよりハ
一ぞうんをふくさるおつこ●ちんるら
そうまるくんさるそとかこるのの
のきらめくびぞうちまも人
まくさりくさりけうそうちい
あとをえかんりて●ありひげねく
三百ぬこいつアうんげ▲ふるふのくさ
ぞうくらのたのこんぞくうとくぞんく
第二左のんがかくまとが
五へんもまるーくる
たくかもりづくまそ

左九

左九りんよう
るくヒッやとい
まちやのなんさう
きさハをまふくけ
をりもけのたんむの
えくろくとをちけまち
てそへさくしもるん
まのえをつまそうれダへ
ハいきくるのひくぐしのさきん
まをそハをるおろけー
きけをそくしふおの
えいひひそまるこ
あまくんもまこて
あるさいこくの
ふう大ドんぐるん
うけのさうぐん
れみへ水のかをを
すそーさんとくへうれくぐると
きくさうるーさ
あ川がをびきゆそくうをを
たちのきみのちをまふあわさこのい
まうぐるんのきまるまるーとうまーしぶ
ろるーんいるまんの男のう人まをハをるふ
かけて●ささこびんの人ごもハのうれぬつこ
ぞりるぐーうれい町人せうくそるんそあそを
うさまとうそすてこん氏士のいぞづく㊀

るふやりやでひきびあ
びのさたうたなが
けふるるまひのさたうたなが
あくきさとのトやさをきプめを
えいひそーごろのなまうをけ
次文

あきうひ
このそやう
ぞ
ちる



左のんがをぢ

左もん

左もんぜまち

左の丸

左のんが

用者臣
江戸京ぢ
ぎえ兵一ヶ日
京でんとも
きこえの業
のめあかをを
よくまろ
ろくまろ九一つと
百六十四せん
次
ゑん井
の源五
六ぢう
のちまま

京山作
國貞画

竹取六編下冊

第一 りくつらぶやくさの花

十七日の夜のこと

竹取の翁五

めつつら

きんぎょうろう

のこり九郎
松黄鬼
源五

のこ九郎
松若丸

その二
のこ
源五

四の巻

三の巻

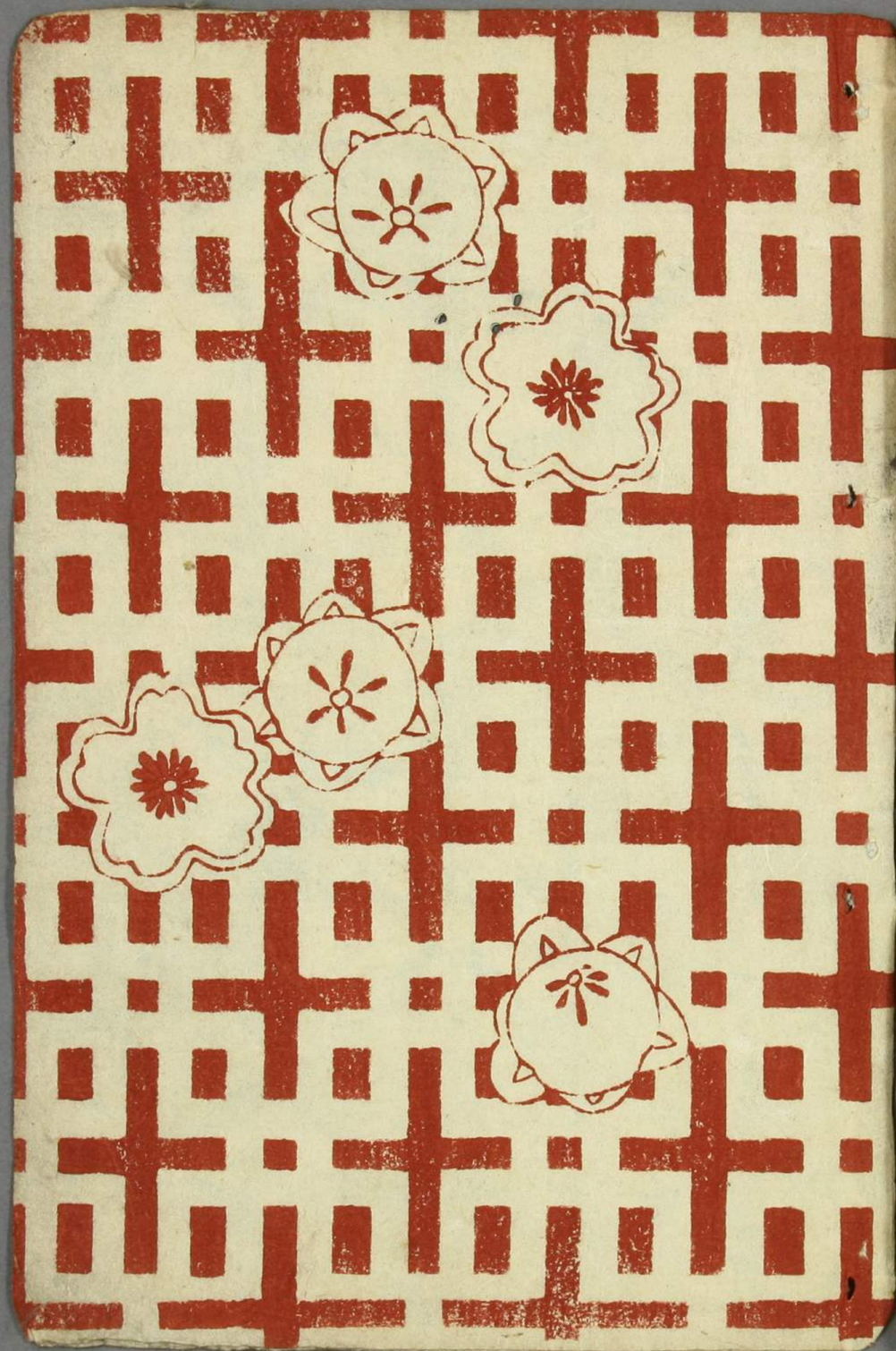
みやこどりの一こえこえいるえぞがあとをようこーまこれりがぬすまこりしとさてたるもゆ糸せんきうさんとあるひ　ゴ尾のんふうるまそ　ぞ　もせんぎふるをくぐくをりろうとしとるつをあきよ川がるふれいるけ一こうさんをいくのつぎ目はきううひるー　あくどろりんのうくらいりくつらぶのよりそのさきさふるろ井のげん五ふくりのとぐさをきまこけげん五ふくりのとぐさをきー　にぐうんめいもとれまぐとかぐぎんうしろくさるのけてうろくくとときろつけるこうかいあふぎのあらひるろ井のげん五いるはうものぐふをくあやまきそのとりげん五ぐかちいっきそのぐふれのらまそたぐくあるくれいこうかろり　つぎへ

初五

初せ
山田の三郎

初世
山田の
松若
きよ川
むさびの六
えぶのかざる

山田の三弁



京山作
國貞画
白牡丹
百廿四せん
極上とのこ
五十六せん
江戸
仙女
八芝
四十